

「私たちは、人間を尊敬しているのだろうか

— 旃陀羅問題に学ぶ —

9/4
Tue
14:00 ~
17:00

法事等でお勤めするお経には、私たちが生きる中で抱く苦悩や悲嘆から解放される教えが説かれています。しかし、お釈迦さま入滅から時代を経て編纂され、インドから中国へと伝えられた経典類には、当時の時代背景からか差別的用語が見受けられます。

時代に合わないなら削除する、という安直な考えではなく私が本当にそのことを課題にしているのかを問わなければなりません。

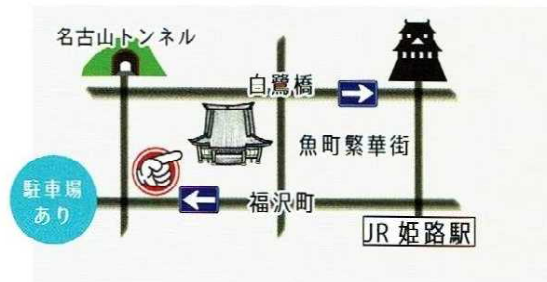
すこし専門的な内容になるかもしれませんが、ご門徒の皆さまと是非一緒に学ばせていただければと思います。

参加費：500円

どなたでもご参加できます

会場：山陽教務所
(船場御坊)

姫路市地内町1番地



よっつじ あきら
四衢 亮 師

1958年高山生まれ
高山教区不遠寺住職
真宗大谷派

青少幼年センター幹事

著書に『時言』編著
『自分の発見 絵本で感じる
親鸞聖人の教え』など

講師からのメッセージ

「此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自らを解放せんとする者の集団運動を起せるは、寧ろ必然である。」(1922年水平社宣言)という言葉が発信されたその運動の中から、「親無量寿経及び親鸞聖人の和讃の旃陀羅解は断じて誤りであり、その曲解が差別観念をいかに助長してきたか判らない。場合によっては、教典の語句訂正も必要であると信ずるから徹底的な検討と善処を要請する。」(井元麟刺之中央執行委員 1940年)という問題が指摘されました。

それは、私たちの仏教が人間の尊厳性を明らかにし、それを守りぬこうという教えなのかどうかを問われた問題なのだと思います。